

Ⅶ 令和4年度 九州地区研究大会報告

令和4年度九州地区盲学校教育研究会

1 大会概要

- (1) 大会主題 令和4年度 九州地区盲学校教育研究会沖縄大会
- (2) 期 日 令和4年11月18日(金)
- (3) 会 場 沖縄県立沖縄盲学校 (web会議システムを使用し分科会ごとにリモートで実施)

2 内 容

- (1) 第1分科会 (学習指導1)
 - ① テーマ 「考えたことや想像したことを整理し、人に伝える力を育成する国語科指導の在り方」
 - ② 協議題
 - ア 言葉と事物を結び付け、正しくイメージを持つための工夫について
 - イ 考えたことや想像したことを言語化し、人に伝えるための工夫について
 - ウ 話し合って意見をまとめるための工夫について (対話的な学び)
- (2) 第2分科会 (学習指導2)
 - ① テーマ 「視覚障害からくる、動きのぎこちなさを改善するための指導と手立てについて」
 - ② 協議題
 - ア 走・跳・投のボディーイメージを高めるための指導の工夫について
 - イ 基礎体力を向上させるための取り組みについて
- (3) 第3分科会 (生活)
 - ① テーマ 「異年齢集団で育むコミュニケーション力を高めるためのアプローチの仕方」
 - ② 協議題
 - ア 個々に応じたコミュニケーションを引き出す工夫について
 - イ 生活に楽しみと潤いをもたらす取り組みについて
- (4) 第4分科会 (特別支援)
 - ① テーマ 「センター的機能を果たすための教育相談体制の現状と課題について」
 - ② 協議題
 - ア 児童生徒数減少に伴う教育相談のあり方について
 - イ 地域や関係機関との連携について
- (5) 第5分科会 (理療)
 - ① テーマ 「就職後の同僚間のコミュニケーション能力育成について」
 - ② 協議題
 - ア 自己開示、援助依頼について
 - イ 生徒数減少に伴うコミュニケーション概論の演習方法について

3 報 告

今年度は、前年度と同様、新型コロナウイルス感染拡大の状況により、Web 会議システムを利用してリモート開催されることとなった。しかし、これにより通常より多くの職員が担当する教科や業務に関連のある分科会に参加することができた。活発な質疑応答や意見交換がなされ、九州各県の視覚支援教育の現状を知る良い機会となった。なお、次年度は本校が主管校となり本大会が開催される予定である。

第27回九州地区聴覚障害教育研究大会（福岡大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する聴覚障がい教育を目指して」
- (2) 期 日 令和4年11月4日（金）から5日（土）まで
- (3) 場 所 福岡聴覚特別支援学校（1日目）・福岡高等聴覚特別支援学校（2日目）

2 内 容

【1日目】11月4日（金）

授業公開（幼稚部・小学部・中学部）

【2日目】11月5日（土）

開会行事・研究概要説明・公開授業（高等部・専攻科）・意見交換会・記念講演・パネルディスカッション・閉会行事

【意見交換会】

① 文系グループ ② 理系グループ ③ 実技系グループ

【記念講演】

演題 「聴覚障がい教育における主体的・対話的で深い学び」

講師 大西 孝志 氏（東北福祉大学 教育学部 教育学科 初等教育専攻教授）

【パネルディスカッション】

テーマ「深い学びに迫る」

《パネリスト》

大西 孝志 氏（東北福祉大学 教育学部 教育学科 初等教育専攻教授）

和田 美千代氏（福岡大学 人文学部 教授）

喜屋武 睦 氏（福岡教育大学 教育学部 特別支援教育ユニット 講師）

坂口 和俊 氏（福岡県立久留米聴覚特別支援学校 前校長）

3 報 告

今大会は3年ぶりの集合開催となった。1日目は幼稚部・小学部・中学部の授業を参観した。まず、校舎の広さや各教室のICT環境に驚いた。各教室には、電子黒板が配置され、生徒はタブレットを自在に使いこなし、廊下にはあらゆるところにモニターが設置され、様々な情報が常に発信されていた。また重複学級の幼児・児童・生徒が多く、これからの本校の姿や重複学級の教育課程の充実について考えさせられた。

2日目は福岡高等聴覚特別支援学校で大会行事と公開授業があった。限られた時間の中で慌ただしく授業を参観したが、特に高等部専攻科 職業技術科ビジネスコースでは、整ったICT環境の中、専門的な知識や技術を習得するための実践的な教育内容となっており、社会に出るために必要な力を身に付けることができるコースであった。幼稚部から高等部までの一貫した教育が為されていると実感することができた2日間だった。

第56回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「沖縄大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 新しい時代に生きる力を育む特別支援教育の展開
～一貫性・系統性のある学びの保障をめざして～
- (2) 期 日 令和4年11月10日(木)・11日(金)
- (3) 場所(会場) オンライン (Zoom ウェビナーおよびミーティング)

2 内 容

- (1) 第1日目
- ① 開会行事
- ② 記念講演 演題『一人一人の子どもの自立と社会参加を見据えた教育課程の在り方
～学びの一貫性・系統性を実現するためのポイント～』
講師 長崎県教育委員会 特別支援教育課 課長 (前 文部科学省初等中等教育局視学官) 分藤 賢之 氏
- (2) 第2日目
- ① シンポジウム
- 《1 知的障害教育における教育課程》 共生社会の実現に向けたすべての子どもたちの可能性を引き出す学びの実現をめざした教育課程の在り方を考える
- 《2 知的障害教育におけるICT活用》 GIGAスクール時代の特別支援教育におけるICT活用～学校と行政、両方の立場から考える
- ② 分科会 1・2・3・4・5・6・7

【分科会 (全7分科会)】

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	日常生活の指導	学習・生活上の困難さに応じた個別指導の工夫	熊本県・福岡県・沖縄県
2	生活単元学習	児童生徒の自然な生活としてのまとまりのある学習の展開	福岡県・佐賀県・沖縄県
3	教科別の指導	主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科別 指導の工夫	佐賀県・長崎県・沖縄県
4	作業学習・進路学習	卒業後の自立と社会参加に向けた学習の在り方	長崎県・大分県・沖縄県
5	自立活動	主体的に困難の改善・克服に取り組む自立活動	大分県・宮崎県・沖縄県
6	交流及び共同学習	心のバリアフリーのための交流及び共同学習	宮崎県・鹿児島県・沖縄県
7	自閉症・発達障害への支援	一人一人の障害特性に応じた指導・支援の在り方	鹿児島県・熊本県・沖縄県

3 報 告

昨年度と同様、今回の研究大会も新型コロナウイルス感染防止を考慮しオンラインにて開催された。記念講演では、教育課程の在り方について、分かりやすく丁寧に説明していただいた。また、シンポジウム及び分科会において、各学校や児童生徒の実態把握を行ったうえで、計画や指導・支援を行っていくということが重要という話が多くあがっていた。来年度は、福岡県で開催予定である。

第 59 回九州地区肢体不自由教育研究大会大分大会

1 大会概要

- (1) 大会の基本テーマ
「学習指導要領を踏まえた肢体不自由教育の充実を図る」
- (2) 開催期間
令和 4 年 10 月 14 日（金）から 11 月 30 日（水）
- (3) 開催形式 <Web での開催>
第 59 回九州地区肢体不自由教育研究大会特設ホームページ

2 内 容

- (1) ①役員会：PTA 連合会 PTA 会長会 校長会 全体会（オンライン会議による実施）
②文部科学省講話（10 月 14 日から 11 月 30 日まで オンデマンド配信）
講師：菅野和彦氏
演題：「国の動向と肢体不自由教育への期待～学習指導要領の着実な実施から、よりよい実施へ～」
③記念講演（10 月 14 日から 11 月 30 日まで オンデマンド配信）
講師：廣道純氏
演題：「どうせ、生きるなら～プラス思考のススメ～」
④学校公開（10 月 14 日から 11 月 30 日まで オンデマンド配信）
大分県立別府支援学校本校及び鶴見校の学校紹介、授業の様子
- (2) 第 1 分科会～第 7 分科会提案資料（オンライン会議による実施）

分科会	内容
第 1 分科会	教育課程・授業改善
第 2 分科会	学習指導（準ずる教育課程・下学年 / 知的代替の教育課程）
第 3 分科会	自立活動
第 4 分科会	情報教育・支援機器の活用
第 5 分科会	センター的機能・健康教育
第 6 分科会	PTA・地域との連携
第 7 分科会	生活指導・寄宿舎教育

- (3) ポスター発表、指導案（10 月 14 日から 11 月 30 日まで公開）
- (4) PTA 座談会（オンライン会議による実施）

3 報 告

今年度の九州地区肢体不自由教育研究大会は、コロナ禍にあってもより多くの方が九州各県の取組が学べるように、ポスター発表や動画、大会資料などを WEB 上に公開し、役員会や分科会、PTA 座談会は、オンラインでの開催、講話や講演、学校公開はオンデマンド配信にて行われた。

役員会では、PTA 連合会、PTA 会長会、校長会、全体会が行われ、研究会の課題や今後の方向性等が話し合われた。

文部科学省講話では、視学官の菅野和彦氏に「国の動向と肢体不自由教育への期待～学習指導要領の着実な実施から、よりよい実施～」という演題で講演していただいた。

記念講演では、プロ車いすアスリートとして活躍されている廣道純氏に「どうせ、生きるなら～プラス思考のススメ～」の演題で講演していただいた。

分科会では、7 分科会に分かれ、それぞれのテーマ毎に提案者からの発表があり、質疑応答、協議の柱を中心とした協議、指導助言と続いた。各分科会でそれぞれの学校の特色のある実践の発表があり、活発な議論が展開された。

第62回 九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 鹿児島大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「病弱虚弱教育の今後の在り方を求めて ～新学習指導要領をふまえて～」
- (2) 期 日 令和4年8月17日(水)～18日(木)
- (3) 方 法 オンライン会議システム (Zoom)

2 内 容

- (1) 第1日目
 - ①分科会打合せ
 - ②理事会
 - ③校長会
- (2) 第2日目
 - ①開会行事・総会
 - ②講演Ⅰ(録画配信) 演題「子どもたちの可能性を引き出す病弱教育」
講師 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 調査官 深草瑞世氏
 - ③講演Ⅱ(Live 配信) 演題「特別支援学校における摂食指導の意義と役割」
講師 鹿児島大学病院 小児歯科 講師 佐藤 秀夫氏
 - ④分科会

分科会名	提言テーマ	担当提言校
教科・領域の指導	「不登校である生徒Aの継続した学習に向けた取組」 ～ICTを活用した学習支援を通して～	福岡県立 古賀特別支援学校
	「自己と向き合う制作活動と展覧会等の活用について」 ～児童生徒のニーズに沿った作品制作指導と作品展・コンクールの活用～	鹿児島県立 加治木養護学校
自立活動の指導	「個々の目標に迫るための授業改善への取り組み」 ～ベッドサイド授業の一事例研究を通して	佐賀県立中原特別 支援学校
	「自ら相談し、整理し、安心して行動できる力の育成を目指して」 ～「自分らしく 輝く つながる ふみ出す」授業の実践	熊本県立 黒石原支援学校
発表校による設定	「自ら課題を設定し、表現力を高めることができる生徒の育成」 ～学び合いの活動の中で作る創作ダンスを通して～	福岡市立 尾形原特別支援学校
	病弱特別支援学校における自立活動の取組	長崎県立大村特別 支援学校西大村文教室

3 報 告

感染防止の観点から、2年続けてのオンライン会議システムでの開催となった。参加校に2回線の割り当てがあり、本県からは赤江まつばら支援学校より7名が参加した。

講演の一つ目は、あらかじめスライドに音声録音されたものが配信された。文部科学省調査官より、病弱教育の現状についての説明があった。児童生徒数は減少しているが、特別支援学校等では増加の傾向にあり、病弱児の精神疾患及び心身症についての割合は、今後も増えると想定されていることや、病弱教育に関する施策(特に高等学校段階の遠隔教育について)について伝えられた。

講演の二つ目は、鹿児島大学病院の歯科医師より、「食べる機能の獲得」が「摂食指導」であり、これは重要な教育課題であること、摂食指導で大切なことなどが話された。

分科会は、例年どおりの3分科会の開催で、当番校からの発表が各20分あり、質疑の時間が設けられ双方向のやり取りがあった後、指導助言という流れであった。

協議などの時間の設定はなかったが、各県から、より多くの方が参加することができ、意義深い研究協議会であった。

第46回九州地区難聴・言語障害研究大会（鹿児島大会）

1 大会概要

(1) 大会主題

「これからの難聴・言語障がい教育のあり方を考える」
 ～ 子どもや保護者のニーズに応える支援や連携をめざして ～

(2) 期日 令和4年度8月3日（水）、4日（木） ※ 中止

(3) 方法 誌上発表

2 内容

分科会	テーマ	発表県	発表のテーマ
第1分科会 (構音)	構音に誤りのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	佐賀県	カ行音とガ行音に置換のある子どもの構音指導～舌の動きの未熟な本児の指導を通して～
		長崎県	個の特性に配慮した、ことばの教室での構音指導～子どもと保護者に寄り添いながら～
第2分科会 (吃音)	吃音のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	福岡県	吃音とうまく付き合える子どもを育てる通級指導のあり方～向き合い 交流し伝える活動の工夫を通して～
第3分科会 (言語発達)	言語発達に課題のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	大分県	自分の思いや考えを言葉で伝え合い、進んでコミュニケーションを楽しめる児童の育成～会話・ひらがなの読み書き等に困りのある子どもの支援～
		沖縄県	難聴児における日本語の語彙力、文法力を高める指導の工夫
第4分科会 (聴覚)	聴覚に障がいのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	宮崎県	通常の学級に在籍する聴覚障がいのある子どもへの対応～子どもや保護者の思いに寄り添った支援体制や環境整備について～
		熊本県	「中学校難聴通級指導教室の取り組み」
第5分科会 (連携)	子どものために、どう連携し支援していくか。	鹿児島県	多様化した通級児童が安心して学校生活を送るための連携の実践

3 報告

今年度の研究大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、誌上発表となった。宮崎県からは宮崎市立小戸小学校の矢動丸博子先生が聴覚障がいのある子どもへの対応についてまとめられ、宮崎県難聴・言語障がい教育研究会研修会において発表検討を行ってきた。より多くの会員が各県の先生方の研究実践を参考にし、日々の教育活動に役立てることができたのではないかと考える。